

Y04c NHAO @サイトプログラムにおける超新星搜索観測

内藤博之、坂元 誠(兵庫県立西はりま天文台)

西はりま天文台は公開天文台であり、教育施設の性格上、望遠鏡の稼働時間は主に一般市民向けの観望会や公開用天体鑑賞画像の取得などに充てられている。一方、国内最大口径の2m なゆた望遠鏡を持つに至ると研究成果もより一層市民に還元すべき重要な要素となってきた。すべての活動を公園利用者に還元するという考えのもと、西はりま天文台ではなゆた望遠鏡の運用が開始される以前から市民が研究観測にも参加できる「@サイトプログラム」構想を提唱している(坂元ほか、2001年秋季年会 V31b)。

現在は超新星搜索観測と OSETI(光学的地球外知的生命探査、本年会「なゆた望遠鏡によるパルスレーザー検出を目的とする OSETI」を参照)を試験的に@サイトプログラムのテーマとして選定し、本プログラムの見直しや改良および観測テーマの策定に取り組んでいる。我々は昨年9月から10回を超える超新星搜索観測を実施しており、その内容は主に次の通りである。

- 超新星に関するミニ講演、なゆた望遠鏡および観測装置の紹介
- 市民による観測体験、画像照合による超新星探し
- 参加者への画像提供、アンケート調査、Web サイトでの情報公開

超新星搜索観測は一般市民の興味が高く、参加者が寄与できる部分が大いテーマであると考えている。また超新星は現代天文学との結びつきが強く、科学的素養を効果的に高めることにおいても期待される。本講演では@サイトプログラムにおける超新星搜索観測の実例とアンケート調査結果などについて紹介する。